平成３０年度豊かなむらづくり顕彰事業　実施概要

本顕彰事業は、集落等におけるむらづくり活動や農業生産活動に顕著な業績を収めている団体等を表彰するとともに、その活動内容を広く紹介することにより、農業・農村の発展に寄与することを目的に、関係機関の御支援をいただきながら昭和５６年より実施しており、本年度で３７回目を迎えました。

これまで「むらづくり部門」で１７０団体、「農業生産部門」で９０団体の合わせて２６０団体が、農山村における地域づくりの模範的な団体として受賞されています。

内　　容	時　　期
事業募集	平成３０年８月２４日（金）
予備審査会	平成３０年１０月１９日（金）１３：３０～１５：３０ ところ：杉妻会館３階　百合Ａ
現地調査	平成３０年１０月３０日（火）～１１月１３日（火） うち５日間
本審査会	平成３１年１月２３日（水）１４：００～１６：００ ところ：杉妻会館３階　石楠花
表彰式	平成３１年３月２２日（金）１４：００～１５：１０ ところ：杉妻会館４階　牡丹

平成３０年度豊かなむらづくり顕彰事業　審査講評

本年度は、１市３町１村から「むらづくり部門」に３団体、「農業生産部門」に２団体の合わせて５団体の御推薦をいただきました。

「むらづくり部門」では、「みんなで協力　一農場！～持続可能な農業を～」、「「もったいない精神」で農村の活性化」、「集落一丸・攻めの地域づくり　～結乃村ファイブアローズの挑戦～」、「農業生産部門」では、「特別栽培農産物の取組で地域の自然環境を守ろう」、「組織力で切り拓く、たむらのピーマン産地」とのそれぞれのスローガンの下で、地域の特色を生かし、創意工夫を重ねながら、先進的、かつ、個性的なむらづくりや農業生産活動が実践されています。

本県農業を取り巻く状況が依然厳しい中、農山漁村に受け継がれた豊かな資源を活用して、地域の潜在的な活力を引き出し、地域の絆を推進力として大きな成果を挙げているその姿は、本県農業・農村の再生・発展に大きな弾みとなるものであります。

審査会では、いずれの推薦団体も、今後一層の発展が期待され、他地域の模範となるものと高く評価できることから、平成３０年度豊かなむらづくり顕彰事業の優秀団体として決定いたしました。

なかでも、猪苗代町の「会津いなわしろ見祢集落・結乃村」は、人口減少やコミュニティの活力低下等の課題解決に向けた話し合いを重ね、集落全戸の合意による集落ビジョンの策定と、推進母体となる協議会を設立され、「集落営農法人における農地集積・多角経営の実現」「ＪＧＡＰ団体認証の取組」「地域ブランド米の作付と海外への輸出」「鳥獣被害対策の計画的な実施」を掲げ、農業生産の安定化を図るとともに、生活・環境面では、「都市と農村の交流推進」「伝統神事・行事の継承を通じた集落内外の交流増進」など多様な活動を実践し、集落全員が安心して暮らすことのできるむらづくりに取り組まれており、今後も更なる発展が期待されることから、平成３１年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」に本県代表として推薦することといたしました。

各受賞団体の皆様には、引き続きむらづくり活動に積極的に取り組まれ、豊かで活力あふれる地域を次世代に繋げていくとともに、本県農業・農村の振興に引き続き御尽力いただきますようお願いいたします。

（審査長　福島県農林水産部長　佐竹　浩）

平成３０年度豊かなむらづくり顕彰事業　受賞団体の概要

◆農事組合法人グリーンファーム九生滝（平田村）

キャッチフレーズ：「みんなで協力　一農場！～　持続可能な農場を　～」

旧集会所前で
グリーンファーム九生滝の皆さん

九生滝地区は、典型的な中山間地域で、農地が小区画で、担い手不足や耕作放棄地が拡大する中、将来の地区の存続に対する危機感から、地区全戸で話し合いを重ね、基盤整備事業への取組や、地区のほとんどの農家が参加する農事組合法人を設立し、集落営農体制を構築しました。

当法人は、地域におけるアスパラガス生産の先駆者として、関係団体と連携し、村特産品としてその生産を確立するとともに、６次化の促進、農業体験を通じた地域内外との交流により、地域の魅力を発信しているほか、女性・高齢者の活躍する場を創出しており、今後も持続可能なむらづくりに貢献することが期待されます。

◆矢祭町特産品開発協議会（矢祭町）

キャッチフレーズ：「「もったいない精神」で農村の活性化」

もったいない市場集荷場にて
矢祭町特産品開発協議会の皆さん

町の基本理念である「もったいない精神」に基づき、規格外として捨てられる「もったいない野菜」や加工品等を都市部に売り込む「もったいない市場」の取組を開始しました。

首都圏等における「もったいない市場」は、年間 100 回程度開催し、町産野菜やこれらを活用した加工品を直接消費者へ提供しています。

さらに、対面販売で得られた消費者ニーズを的確に捉えた取組を通じて所得が向上しており、高齢者の営農意欲や生き甲斐が創出され、新品目の作付け、都市との交流、耕地の有効活用等に繋がっています。今後も農業・農村の活性化に大きく貢献することが期待されます。

◆会津いなわしろ見祢集落・結乃村（猪苗代町）

キャッチフレーズ：「集落一丸・攻めの地域づくり　ー 結乃村ファイブアローズの挑戦 ー」

開店時の農家レストラン「結」の皆さん

見祢集落は、人口が減少し、住民関係の希薄化、担い手確保等の課題について話し合いを重ねた結果、集落内の５組織が連携し、地域づくりを一体的に推進する見祢結乃村未来協議会を設立しました。

協議会では、農事組合法人を中心とした集落営農の実践、鳥獣被害対策の実施、農家レストラン等の地域産業６次化、都市との交流、ならびに伝統文化の継承などの幅広い活動を行い、集落機能の維持・発展・活性化に結び付けています。

また、むらづくりの指針として策定した集落ビジョンは毎年検討、見直しを行い、目標達成に向け取組を進化させています。今後も、「安心して暮らすことのできるむらづくり」へ向けて大きく貢献することが期待されます。

【　農業生産部門　】

◆松川うまいっ米会（福島市）

キャッチフレーズ：「特別栽培農産物の取組で地域の自然環境を守ろう」

『 平成 30 年度「活動報告会」に参加された
松川うまいっ米会の皆さん』

米価下落に対応し、「リピーターの来るおいしい米づくり」を目指すため、初代会長がＪＡ水稲専門部会松川支部会員へ呼びかけ、会津地方と同じ「1.9㎜」の篩目で選別する取組を始めました。

さらに、「自然環境にやさしい農業」を実践し、現在では会員 43 名のうち 30 名が特別栽培米の認証を受けるとともに、冬期湛水にも取り組んでいます。

1.9㎜で選別した特別栽培米「吾妻の輝き・雪うさぎ」は、粒張りが良く、整粒歩合の高い米として高評価を受けています。

当会は、組合員を増やしながら、約 20 年間にわたり、技術の継承活動に取り組んでおり、今後も地域農業の振興に大きく貢献することが期待されます。

◆福島さくら農業協同組合たむら地区ピーマン専門部会（三春町）

キャッチフレーズ：「組織力で切り拓く、たむらのピーマン産地」

福島さくら農業協同組合たむら地区ピーマン専門部会
（三春支部の皆さん）

田村地域のピーマン栽培は、三春町で試作が始まり、昭和 63 年より本格的栽培となりました。葉たばこ以上に収益性が高いことから、田村地域全体に拡大するとともに、国の指定産地となり、現在、県内一の産地が形成されています。

また、全ての部会員がエコファーマーの認定を受けており、かん水作業の省力化のためのソーラー自動かん水システムの導入や、炭そ病多発地域での共同防除組織による防除など、生産力向上に積極的に取り組んでいます。

震災後は、葉たばこの転換作物として作付がさらに推進され、年々単収、出荷量が増加するとともに、商工会等での６次化商品開発にもつながるなど今後も地域農業の振興に大きく寄与することが期待されます。